

令和4年度当初予算において意見を反映した主な事業

◎意見数 41

(単位:千円)

テーマ1 次代を担い地域を支える人材の育成・確保

「都会から農村へ移住してきた方の話を聞くと、良い土地だと感じてはいるものの、地域の組織や会合が多く、気楽さという点では都会の方がよかったという方もいる。こういったものの解消などが重要ではないか。」

⇒ 本県への移住・定住を推進するため、「くらすべ山形」を中心に移住セミナーの開催や、移住者へのアフターフォローを行っている。あわせて、移住者と、移住者を受け入れる地域の双方が、互いに尊重し、相互に理解しあいながら地域で暮らしていただけるよう、地域づくり人材育成研修会などを通したサポートを行っている。(移住定住・人材確保戦略的展開事業費【拡充】125,186)

テーマ2 競争力のある力強い農林水産業の振興・活性化

「農業における収入保険はとても手厚い補償内容となっている。安定を望む若い農業者の定着や、若い農業者のチャレンジにもつながると思うので、加入を勧めていってはどうか。」

⇒ 自然災害等が農業に与える影響は非常に大きく、農業セーフティネットの重要性がこれまで以上に増していることから、農業関係者等と「農業セーフティネット加入促進協議会」を令和3年度に設置。各種制度に対する理解促進や、保険料の負担軽減を図るなど、市町村と連携して収入保険の加入を促進していく。(農業経営セーフティネット総合対策事業費【新規】26,587)

テーマ3 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化

「さくらんぼは観光にとっても大きな素材である。旅行者のさくらんぼもぎ取り体験などを通じて、交流型観光を進めていってはどうか。」

⇒ 本県への観光誘客の回復を図るため、さくらんぼのブランドイメージを活用したラッピング列車やバスなどによる情報発信やイベント列車の運行を行う。また、県内の子どもたちを対象としたさくらんぼ狩り体験を実施し、さくらんぼの魅力を認識してもらうことにより、マイクロツーリズムを促進し、観光果樹園への誘客を図る。(さくらんぼを活用した誘客事業費【新規】21,077)

テーマ4 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり

「コロナ禍で出生率が一層低下している。育休取得が困難であることといった就労面の不安や、不妊治療費、出産費用の負担が影響していると考えられ、支援の対象となるかわからず不安を抱える方がいる。今後を見通せるよう、わかりやすい丁寧なアナウンスが必要ではないか。」

⇒ 不妊治療への支援については、専門相談窓口の設置や、特定不妊治療に対する助成金の給付による経済的負担の軽減、不妊や不妊治療に関する情報提供等を行っている。令和4年度から不妊治療への公的医療保険適用が始まり、患者の負担軽減につながる一方で、従来よりも自己負担が増加するケースが発生することから、自己負担額の一部を県単独で助成する。こうした取組みについて、機会を捉え周知を図っていく。(山形しあわせライフ応援プログラム事業費(妊娠のステージ)【新規】113,465)

テーマ5 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用

「高規格道路の整備が進んでいるが、アクセス道路についても整備をすべき。中には、急こう配で狭い箇所や、冬季には雪崩の危険性がある箇所があることから、県道の改修を早期に実現すべきではないか。」

⇒ 急こう配で狭い箇所については、道路幅員を拡幅するとともに、勾配を緩くして道路の安全性を確保する道路改良事業の実施や、雪崩対策として予防柵の設置、支障木の伐採など、箇所に応じて一般交通の安全確保を行っている。これら工事を進めるとともに、道路パトロール等の強化や状況に応じた必要な対策の実施を図っていく。(道路改築事業費【継続】7,304,351等)